

## PRESS RELEASE

## PRESS RELEASE

2008年7月8日

気候ネットワーク代表 浅岡美恵

### 洞爺湖サミット 今年のサミットから進展なし

福田首相、気候変動問題でのリーダーシップ発揮に失敗

7日から北海道洞爺湖町で開催されている G8 洞爺湖サミットは 2 日目の 8 日、気候変動問題について議論を行った。「世界の環境みんなで守ろう」と題して福田首相が白クマと並んで立っているポスターが貼り出されているように、今回のサミットは、気候変動問題を主要議題として取り上げる会合となった。この、極めて深刻で緊急な対応が必要な問題に対して、G8 諸国という経済大国がどのような責任を果たすことができるのか、そして日本の福田首相がどのようなリーダーシップを図るのかに注目が集まった。

しかし、本日午後発表されたサミット文書は、私たちの期待に応えるものには程遠い。

長期目標については、少なくとも 2050 年に半減との目標を UNFCCC の交渉で検討し採択することを求めるとし、半減目標を G8 の共通認識としたようだが、これは米国以外の国にとって昨年からの進展はないに等しい。また今回のサミットは、中期目標について、特に先進国の責任として、1990 年比 25～40%という IPCC（気候変動に関する政府間パネル）が示す削減を踏まえたバリ合意に沿った数値を掲げるべきであった。しかし、中期目標について具体的なレベルも示せず、「各国の事情の違いを考慮し」、「野心的な国別総量目標を実施する」と言うにとどまり、これも何も言わなかったに等しい。そもそも、「気候変動の最も深刻な結果を避ける」ことへのコミットとされており、本来最も低いレベルに影響を抑えるべきというバリ合意を反映した先進国の中期目標の設定を決意したものとはいいたい。

また、ブッシュ米政権が主導していた主要経済国会合（MEM）についても、今後、「向こう何ヶ月かにわたり、議論を続けることを期待している」と、今後もプロセスを継続する意向が見受けられ、ブッシュ米大統領の MEM を福田首相が引き継ぐのではとの懸念を抱いている。

私たちは、G8 サミットにおいて、日本が真にリーダーシップを発揮することを期待していたが、多くのメディアが参集して議論がにぎわう以上の結果は何も出せずに終わったことに心から失望している。これを「成功」と呼ぶのにはあまりにもほど遠い。日本は、今求められているのは、気温上昇を 2 度未満に抑えていくための道筋づくりであり、それを実現するための目標設定であることを改めて再認識して出直す必要がある。

明日には G8 諸国に主要途上国を含む MEM 会合が開催される。洞爺湖で同時開催されるものの、これは G8 とは別物である。MEM は MEM として慎重に注視したい。

---

問合せ：気候ネットワーク 浅岡美恵（090-2114-4551）、平田仁子（090-8430-7453）

東京事務所：TEL 03-3263-9210 FAX 03-3263-9463 E-mail [tokyo@kiconet.org](mailto:tokyo@kiconet.org)

京都事務所：TEL 075-254-1011 FAX 075-254-1012 E-mail [kyoto@kiconet.org](mailto:kyoto@kiconet.org)

URL <http://www.kiconet.org>